

## 別記仕様書 I

## 放牧地牧柵等管理業務

## I 肉牛放牧地牧柵作業【肉牛G】

## 1 作業時期

雪解けにより作業可能となった日から5月中旬頃（放牧開始まで）とする。

なお、具体的な時期は業務担当員（肉牛G）が別途指示する。

## 2 作業内容等

作業に支障がある倒木等は、別記仕様書Ⅱ放牧地ほ場管理業務の一環として、撤去すること。

## (1) 牧柵補修作業

ア 目視等により破損箇所を確認し、有刺鉄線脱落部を針金で、切断部分を有刺鉄線で補修する。また、錆び等により切断の恐れがある有刺鉄線は、当該部分を張り替える。

イ 破損アングル柱の補修・交換・控えアングル柱による補強をする。

ウ 雪や土砂等で沈んだアングルは適正な位置まで引き上げるか、打ち直しを行った上で、強度を確認する。

エ 出入口の破損部分を針金等で補修する。

## (2) 牧柵更新・補強・新設作業

ア 更新：既設有刺鉄線を撤去し、新たに有刺鉄線を張り直す。必要に応じてアングル柱の交換等を行う。

イ 補強1：既設アングル柱間隔3.6mの中間にアングル柱を新たに1本追加し、既設有刺鉄線を針金で固定する。必要に応じて既設アングル柱及び有刺鉄線の補修・交換等を行う。

ウ 補強2：既設有刺鉄線を撤去し、既設のアングル柱間隔3.6mの中間にアングル柱を新たに1本追加後新たに有刺鉄線を張り直す。

## (3) 資材の片づけ・廃材等の回収作業

使用可能なアングルは上下をそろえD型倉庫に収納。

錆や変形が酷く使用できないアングル等は廃品置き場へ廃棄。

結束しや補修等で使用した針金は、細かい物が多いため肉牛Gで準備したドラム缶に入れ収納する事。

※ドラム缶の設置場所については都度、業務担当員（肉牛G）から連絡する。

※ドラム缶に8割位収納したら業務担当員（肉牛G）へ連絡する事。（連絡先：080-6066-9080）

## 3 作業場所等

作業場所は地図1のとおり。

なお、作業対象の牧柵延長は下記のとおりとし。具体的な作業場所は業務担当員（肉牛G）が指示する。

(1) 牧柵補修作業：延長34,213mとする。

(2) 牧柵更新作業：延長1,177mとする。

(3) 牧柵補強1作業：実施なしとする。

(4) 牧柵補強2作業：実施なしとする。

## 4 使用する機械等

バックホー（0.2㎡級）、平型トラック、ハンマードリル、有刺鉄線張り機、パンチ又はクリッパー、有刺鉄線作業手袋、アングル柱打ち込み用定規など、作業に必要な道具等は乙が用意する。

## 5 提供する資材

作業に必要なアングル柱、有刺鉄線及び針金は肉牛Gが指定する施設から引き渡す。

また、資材の持ち出し量は業務担当員（肉牛G）の確認を受けること。

なお、発生した旧資材は、業務担当員（肉牛G）が別途指示する場所に運ぶこと。

## 別記仕様書 I

## 放牧地牧柵等管理業務

## II めん羊放牧地牧柵フェンス作業【中小家畜G】

## 1 作業時期

牧柵フェンス補修等は、雪解けにより作業可能となった日から5月中旬頃(めん羊放牧開始まで)とする。  
牧柵フェンスの取り外しは、めん羊が下牧し作業可能となった日から11月下旬とする。  
なお、具体的な時期及び作業内容の詳細は業務担当員(めん羊)が別途指示する。

## 2 作業内容等

作業に支障がある倒木等は、別記仕様書II放牧地ほ場管理業務の一環として、撤去すること。

## (1) 牧柵フェンス補修作業

破損アングル柱の補修・交換・控えアングル柱による補強を行う。

なお、雪で沈んだアングルは適正な位置まで引き上げるか、打ち直しを行った上で、強度を確認する。  
出入り口の破損部分を針金等で補修する。

## (2) 牧柵フェンス取り付け作業

牧柵フェンスは、アングル柱1本につき3箇所を針金で固定する。

なお、アングル間(間隔2.5m)のフェンスにたるみが生じないように取り付け、フェンスの高さは90cmを確保する。

各牧区の出入口は、開閉可能となるように牧柵フェンスを設置する。

## (3) 牧柵フェンス取り外し作業

アングルから取り外した牧柵フェンスはその場に置く。

なお、作業終了後、未補修箇所、補修不完全箇所がないことを確認する。

また、取り外し漏れがないか確認する。

## 3 作業場所等

作業場所は地図2のとおり。

なお、作業対象の牧柵フェンス延長9,648mとし、具体的な作業場所は業務担当員(めん羊)が指示する。

## 4 使用する機械等

バックホー(0.2m<sup>3</sup>級)、平型トラック、ハンマードリル、ペンチ又はクリッパー、アングル柱打ち込み用定規など作業に必要な道具等は乙が用意する。

## 5 提供する資材

作業に必要なアングル柱及び牧柵フェンスは、中小家畜Gのめん羊乾草舎で引き渡す。

なお、交換した資材は業務担当員(めん羊)が別途指示する場所に運ぶこと。

また、資材の持ち出し量は業務担当員(めん羊)の確認を受ける。

## 放牧地牧柵等管理業務

### Ⅲ 作業期区分の設定

本放牧地牧柵等管理業務は、次のとおり作業を2期に区分する。

乙は各期作業が終了毎に実績報告書(別紙様式5)を甲に提出し、甲の確認を受けた後、請求するものとする。

#### (1) 放牧地牧柵等管理業務Ⅰ

「Ⅰ 肉牛放牧地牧柵作業」

「Ⅱ めん羊放牧地牧柵フェンス作業」のうち「2 作業内容等」の(1)及び(2)

#### (2) 放牧地牧柵等管理業務Ⅱ

「Ⅱ めん羊放牧地牧柵フェンス作業」のうち「2 作業内容等」の(3)

## 放牧地ほ場管理業務

### I 枝石拾い作業【肉牛G・中小家畜G】

#### 1 作業時期

枝・石拾い時期は雪解けにより作業可能となった日から5月中旬頃(放牧開始まで)とする。

なお、具体的な時期は業務担当員が別途指示する。

#### 2 作業内容等

草地に散乱する枝、倒木(注)、目に付いた石を拾い、業務担当員の別途指示する場所に集める。特に、防風林及び道路に接している草地を重点的に実施する。

なお、作業は草地を痛めないように実施し、わだち等が出来た場合は速やかに修復する。

注：幹の直径に関係なく全ての倒木を対象とする。牧柵等にかかっている倒木も対象とし、撤去後に牧柵等の補修を行うこと。

想定される倒木処理本数は20本程度とし、大幅に超過する場合には甲乙協議とする。

#### 3 作業場所等

枝・石拾い場所は、放牧地及び兼用地211.51haで場所は地図3及び地図4に示した場所とする。

集めた枝・石等は、堆積場所まで運び込むこと。なお、処分方法や堆積場は業務担当員が別途指示するため、事前に打ち合わせを実施すること。

#### 4 使用機械等

平型トラック又はショベルローダー、チェーンソー等

別記仕様書Ⅲ

ふん尿調製管理業務

I ふん及び堆肥等運搬・調整作業【飼料生産技術G】(肉牛G、衛生G、中小家畜G)

1 作業時期

4月から翌年3月とする。

2 作業内容等

(1) ふんの運搬

畜舎施設の堆肥舎に堆積したふんをショベルローダーですくい上げ、ダンプトラックに積み、集中堆肥舎及び総合堆肥舎に運搬する。

運搬した堆肥の積み方等は、状況により業務担当員(飼料生産技術G)が指示する。

※必要に応じて(ふん及び堆肥の形状・状態を見て)前回分と混合しながら堆積する。

※輸送に当たっては道路にふんを落とさないよう注意し、一連の作業終了後は、通路や施設内を清掃する。

(2) 集中堆肥舎、総合堆肥舎の切り返し作業

4つのハウスからなる集中堆肥舎においては、ハウス間の移動によりふんの切り返しを実施する。

切り返し作業頻度等は堆肥舎の全量を対象とし、月1回(年12回)とする。

(3) 堆肥舎の管理

集中堆肥舎及び総合堆肥舎の排汁が流出しないよう、定期的に排汁溝を掃除するとともに、管理に必要な箇所の草刈りを実施する。

3 作業場所等

年間のふん搬出量は約4,000tとし、想定される搬出場所、1回の排出量及び頻度は次表のとおりとし、搬出場所の位置図は地図5とする。

なお、搬出の順番は業務担当員(飼料生産技術G)が別途指示する。

また、ふんの堆積状況に応じて搬出時期や頻度に変更される場合は、業務担当員(飼料生産技術G)より別途指示する。

家畜ふん等の搬出場所等

グループ	搬出場所	1回の搬出量	頻度	備考
肉牛G	和種馬保存厩舎	40t程度	年3回	パドック内
	肥育試験牛舎	30~70t程度	毎月	
	繁殖試験牛舎	15t程度	毎月	パドック内
	成雌牛舎	50~200t程度	毎月	パドック内
	総合検定牛舎	20t程度	毎月	
	肉牛育成牛舎	30t程度	毎月	
	黒毛肥育試験牛舎	10t程度	毎月	
	黒毛ドナー牛舎	50~100t程度	毎月	
家畜衛生G	育成試験牛舎	50t程度	年3回	
	衛生試験畜舎	10t程度	年6回	
中小家畜G	繁殖羊舎	15t程度	約6回	
	試験羊舎	5t程度	約7回	
	幼雛舎	4t程度	年7回	フェンス内
	鶏舎	5t程度	毎月	
中小家畜G	豚舎	4t程度	4・6・8・10 12・1・2・3	

## ふん尿調製管理業務

### 4 使用機械等

ショベルローダー、ダンプトラック

※1回ふん搬出作業終了時まで、作業機械を当場に置くこととする。

## Ⅱ 尿当運搬・散布作業【飼料生産技術G】

### 1 作業時期

5月から翌年1月とする。

なお、具体的な時期は業務担当員（飼料生産技術G）が別途指示する。

### 2 作業内容等

畜舎の尿溜等からバキュームし採草地等に散布する（3.3t/10a程度）

なお、年間の取扱量は約1,800m<sup>3</sup>とする。

また、冬期間に汲み取りを実施する場合は、スラリーストアに搬入する。

### 3 作業場所等

尿等の汲み取り場所・時期及び散布先等は次表のとおりとし、施設場所は地図6とし、具体的な作業場所は業務担当員が指示するので、業務処理責任者は確認すること。

また、鶏舎汚水柵3箇所の実施場所、順番等は汚水のたまり具合を見ながら業務担当員が指示する。

なお、散布場所は採草地及び放牧地の一部とし、業務処理責任者は粗飼料生産等業務受託者と協議すること。

また、尿等の貯留状況に応じて搬出時期や頻度は変更される場合があり、業務担当員より別途指示する。

尿等の汲み取り場所・時期及び散布先等

グループ	汲み取り場所	汲み取り時期	散布先等
肉牛G	成雌牛舎（曝気槽含む）	5・9・11月	採草地及び放牧地
	繁殖試験牛舎（曝気槽）	5 1 1月	
	肉牛育成牛舎	7月	
	黒毛肥育牛舎	5月	
家畜衛生G	育成試験牛舎	5・9・11月	採草地
	スラリーストア	10月	採草地
	衛生試験畜舎	5・9・11月	採草地
	隔離試験牛舎	11月	採草地
中小家畜G	繁殖羊舎	10月	採草地
	試験羊舎	10月	採草地
	鶏舎（汚水柵3箇所）	6・8・9・11	採草地
	豚舎（汚水柵）	5・11	採草地
飼料生産技術G	集中堆肥舎	5・10月	採草地
	総合堆肥舎	5・10月	採草地

### 4 使用する機械等

バキュームカー（沈殿物も汲み出す能力を有するもの）

## ふん尿調製管理業務

### Ⅲ 作業期区分の設定

本ふん尿調製管理業務は通年の作業となることから、4月から8月までを「ふん尿調製管理業務Ⅰ」、9月から翌年3月までを「ふん尿調製管理業務Ⅱ」と年間の作業を2期に区分する。

乙は各期作業が終了毎に実績報告書（別記第14号様式）を甲に提出し、甲の確認を受けた後、請求するものとする。

## 畜舎等環境整備業務

### I 草刈り作業【飼料生産技術G】

#### 1 作業時期

5月中旬から9月下旬までとし、2回実施する。

なお、具体的な時期は業務担当員（飼料生産技術G）と調整し決定すること。

#### 2 作業内容

畜舎周辺の草刈りを行う。刈り残しがないよう注意すること。

なお、刈った草については、搬出する必要はないが、道路、側溝には入らないようにすること。道路、側溝に刈った草が入った場合は取り除くこと。

#### 3 作業場所等

作業面積は79,850㎡、2回刈り延べ面積159,700㎡とし、作業場所は地図7とする。

具体的な作業場所については業務担当員（飼料生産技術G）が指示する。

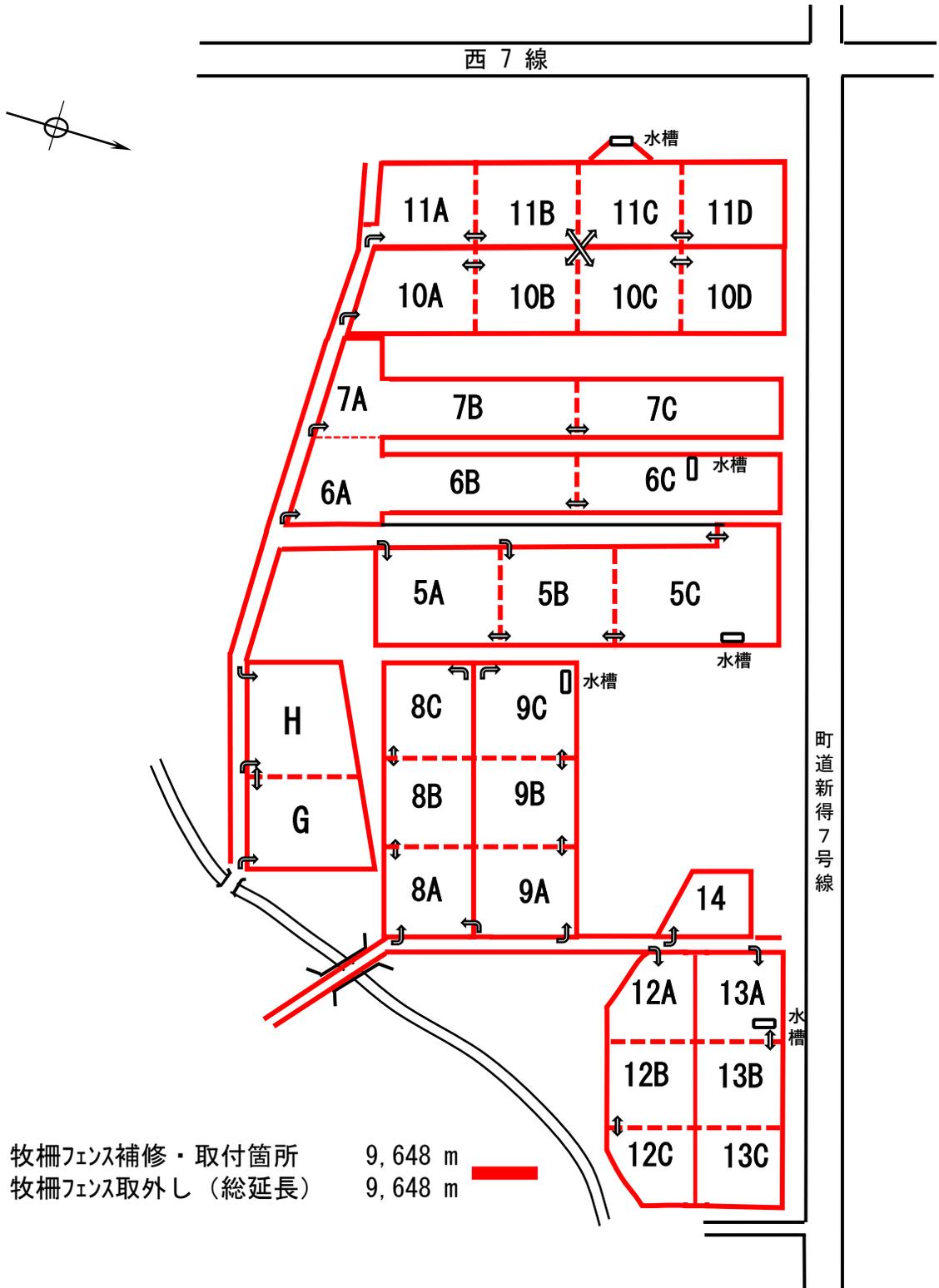
#### 4 使用する機械等

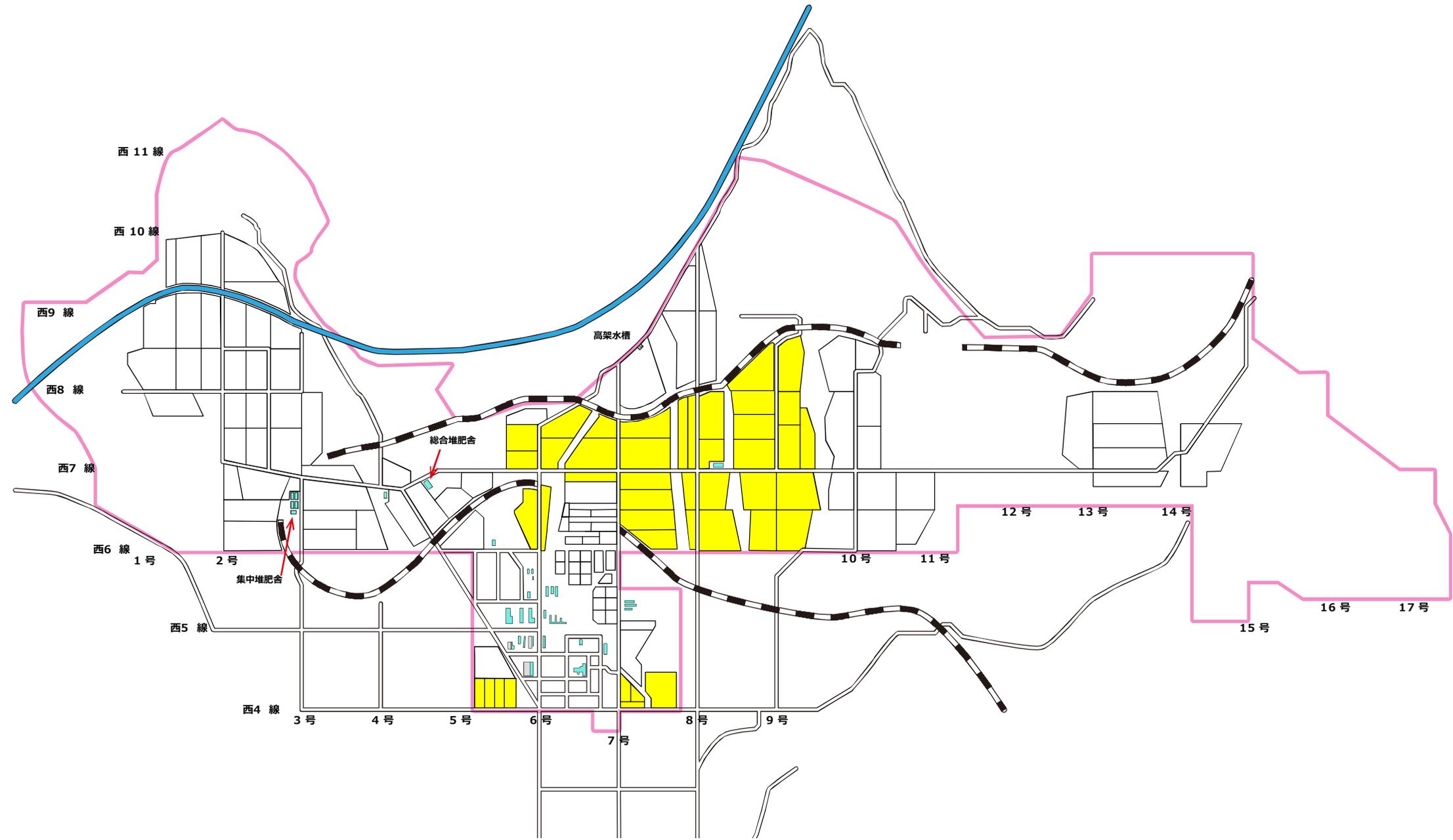
刈り払い機等



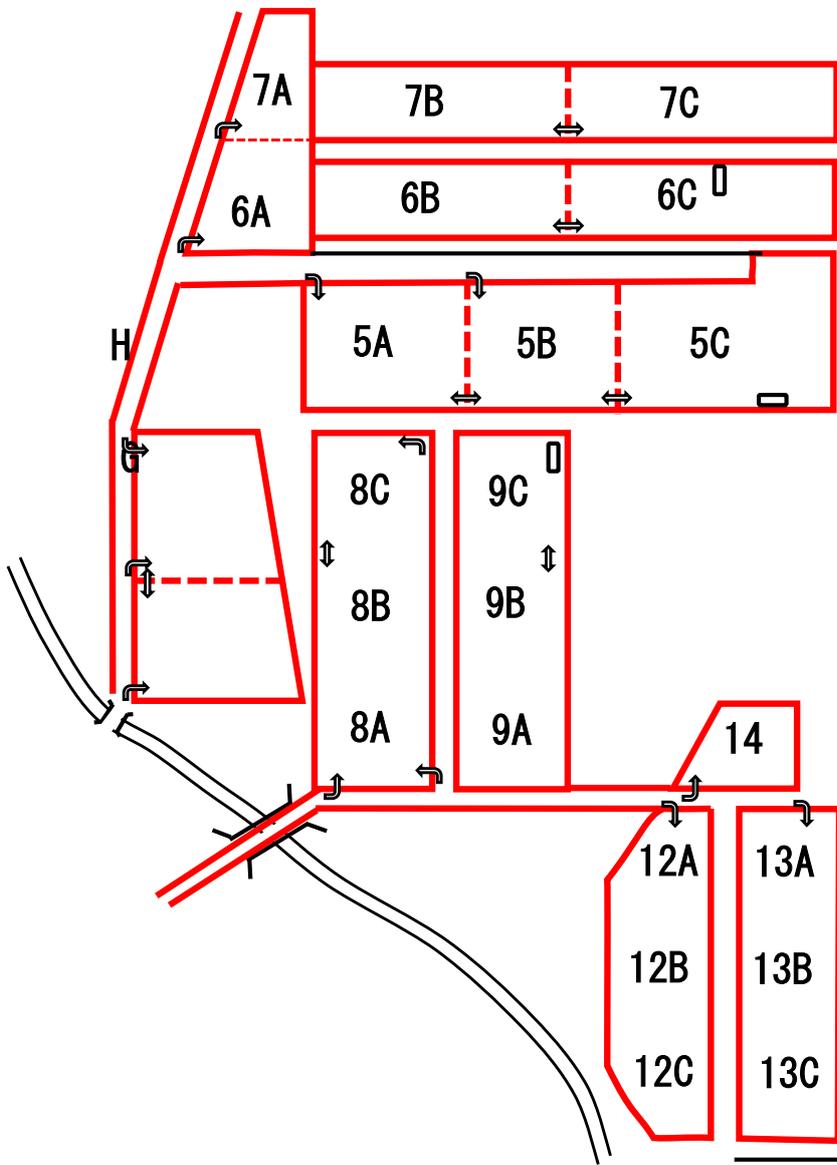
# 地図 2

放牧柵フェンス（中小家畜G：めん羊）





# 地



町道新得7号線



地図7 草刈り作業範囲

